NO.278　精神障害者の家族の会の機関誌　2024年3月22日発行

KSKR だいかれん

公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会（大家連）

一九九六年五月一日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

＝圏域交流会を実施して＝
一緒に悩んで、一緒に声を上げよう、はたらきかけよう

会長　大野　素子

〈悩みは同じ・分かち合い〉

2020年から急拡大したコロナ感染で、お互いに顔を合わせる機会が減って、おしゃべりしてみて気持ちをリセットするというつながりが途切れがちになってしまった家族会の集まりでした。

家族がお互いにもう一度元気になろうという意図で、圏域交流会を企画しました。今まではテーマを決めて講師を招くという圏域交流会でしたが、今年はとりあえず会員の皆様と理事会が顔の見える交流をしてみようではないかということになりました。理事も当事者を抱え、自分の体調の問題や持病を抱え時間のやりくりをしながらの活動で家族としての日頃の悩みは同じです。自分の悩みをおしゃべりしてみて、そしてお互いの悩み事を聞いているうちに新しい気づきや共感することで気持ちの整理ができる「リセット」は私たち家族同士でこそできることです。

〈はたらきかけ〉

そして、大家連としては毎年大阪府、大阪市へは当事者家族の願いを集約したものとしての要望書を提出して意見交換会を重ねてきました（来る３月12日大阪府との協議、本誌P７に要望書要約を掲載）。また、大阪府、大阪市の各種委員会へ理事が出席して、常日頃の家族会や電話相談からうかがえる当事者と家族の悩みや困りごとを施策に反映してもらえるよう発言しています。

地域支援者、当事者団体、学識経験者や行政関係者、医療関係者などに交じって一介の市民にすぎない私たちには緊張を強いられる場ではありますが、当事者や家族から聞かせていただいた声を何とか伝えようと思い参加し発言しております。

〈歴史は変わったか？声を上げよう〉

100年以上も前1900年に病者の私宅監置を認める「精神病者看護法」が発せられ、座敷牢に監置される状況を見て精神科医呉秀三さんの言われた「この病を受けたるの不幸のほかに、この国に生まれたるの不幸をかさぬるものという

（p2に続く）

―目　次―

◆ 一緒に悩んで、一緒に声を上げよう、はたらきかけよう　1～2P
◆ 各地の圏域交流会報告　2～3P
◆ 精神保健福祉講座⑤⑥報告　4P
◆ 家族の思い　5P
◆ シンポジウム　6P
「なぜ、精神科医療現場等で虐待が繰りかえされるのか
～滝山病院の虐待事案から考える～」を聴いて
◆ 令和6年度　大家連要望書（大阪府知事宛て）　要約　7P
◆ 賛助会費・寄附報告　編集後記　8P

べし」という日本独特の「二重の不幸」と言われる社会的な無理解、偏見、制度、施策の遅れは2022年の障害者権利条約の総括所見で厳しく指摘されている事柄に含まれています。

不当な身体拘束などの隔離拘束、入院中心に偏る収容施策など、社会が障害に向き合わない今の日本の現実を厳しく指摘しています。精神保健福祉法の在り方ですら見直しを求められています。

病院で繰り返される虐待事件、家族が長らく「親亡き後の不安」にさいなまれ、100年以上たって、「保護者制度」は法的にはなくなっても家族の頑張りがなければ維持できない家族依存の精神障害者の暮らしがあります。皆さんから伝わってくる困りごとには「この国に生まれたるの不幸」が凝縮されている日本中の家族が抱えている事柄です。声をあげましょう。

〈前を向いて〉

残念ながら要望書を提出しても制度、施策が少しも変わらないではないかというご批判をいただくことがたびたびあります。ですが、今年４月１日より障害者差別解消法では民間事業者の障害者への「合理的配慮」の義務化が実施されます。障害者の差別相談窓口の利用を進めるなど、制度を大いに活用して制度・施策を変えてゆこうではありませんか。

相談窓口一覧は地域家族会に送付させていただいております。是非ご活用ください。

各地の圏域交流会報告

《豊能》
２月25日（日）
会　場：池田市保健福祉総合センター
参加者：21名
箕面市　・グループ風
　　・みのお笑顔の会
豊中市　・豊中ゆたか会
池田市　・池田てしま会
能勢町　・てしま会能勢分会

《北摂》
12月25日（月）
会　場：高槻市立障がい者福祉センター
参加者：13名
吹田市　・吹田のぞみ家族会
茨木市　・茨木家族交流会
高槻市　・高槻明星会

《大阪市内》
12月３日（日）
会　場：アネックスパル法円坂
参加者：９名
城東区　・城東家族会
大正区　・大正若葉家族会
西区　　・西ひかり家族会
東住吉区・はあぶ東住吉
東成区　・東成家族会

《北河内》
11月18日（土）
会　場：枚方市立総合福祉会館ラポールひらかた
参加者：28名
枚方市　・枚方やなぎ会
　　・枚方さくら家族会
　　・枚方わかちあう会
　　・府立精神医療センター家族会
　　（乃ぎく会）
寝屋川市・みつわ会家族会
四條畷市・ぽちぽちの会

《中河内》
２月27日（火）
会　場：アネックスパル法円坂
参加者：５名
東大阪市・東大阪なごみ会
　　・東大阪ふよう会
　　・阪本病院家族SST交流会
八尾市　・八尾こころ家族会

（p3に続く）

《南河内》
２月27日（火）
会　場：アネックスパル法円坂
参加者：９名
羽曳野市/藤井寺市/柏原市
・まつしの家族会
松原市　・くすの木会
河内長野市・河内長野わかば会
大阪狭山市・大阪狭山つくし会
太子町/河南町/千早赤阪村/富田林市
・富田林ほっこり会

《泉州》
３ヶ月おきに定期的に開催
会　場：持ち回り開催
参加者：平均10～15名
堺市　・堺のぞみの会
・家族SST交流会
・美原つくし会
高石市　・高石あけぼの会
泉大津市/忠岡町　・ひまわり家族会
和泉市　・和泉あじさい会
岸和田市/貝塚市　・岸和田貝塚はづき会
泉佐野市/熊取町/田尻町　・三枝会家族会
泉南市　・泉南のぞみ会

南河内圏域交流会からの報告

圏域交流会が中断していた数年間、いろいろあったりなかったり、それでも元気に再会できたことを喜び合いました。

自己紹介から始まって、家族会で困っていること、大家連に望むこと、これからの圏域交流会について話し合い、さらにそれぞれの当事者の状況、福祉サービスの利用、また各市のひきこもりに対する取り組みなど他市の状況をお聞きすることができました。

これからの圏域交流会については、以前のように講師を招いて大きな会場を借りてという大々的ものではなく、年に１回持ち回りで、各家族会の定例会へ参加し勉強会や交流会のような形でやってはどうかという案が出ました。他市の家族会と交流することで、当事者も家族も安心して暮らしていくためのたくさんの情報や気づきを得ることができると思いました。

（編集委員　D）

《参加者の感想・思い》

- 久しぶりに地域の家族会の方と会えて、話がはずみ、またいろいろな情報をいただいて充実した時間を過ごせ、パワーをいただきました。「親亡き後、親あるうちに」といつも思っているが、大家連や家族会のことなど目先のことが忙しくて思うようにできない、進まないのが悩みです。
- 久しぶりに近くの家族会の方と話ができてよかったです。悩みは同じだなと思いました。家族会の会員が増えるように声かけしていますが、なかなかです。あきらめずに支援センター、福祉課などと顔なじみになって地道にやっていくしかないかと思っていますが大変です。
- 参加された方の情報を多く聞くことができてよかったです。家族会として次の世代の方たちと共に活動したり、話し合ったり、学習したりする場面や集まる場面がなかなか作れない。
- 家族会の会員が増えてほしいです。本人には外（社会）とつながってほしいと親としては思っているので、家にこもっている場合、支援のアウトリーチがあればと思いました。
- ひとつ聞き忘れたことがあります。会員減少もさることながら、定例会の参加者も減っています。参加されなくなった会員さんへはどのようなアプローチをしているかをお聞きしたかったです。

精神保健福祉講座⑤⑥報告

精神保健福祉講座⑤
「最近なぜうつ病や発達障害が増加しているのか、その科学的理由」
「最近なぜ引きこもりや不登校が増加しているのか、その科学的理由」

12月９日（土）
エル・おおさか本館５階視聴覚室とZOOM配信
参加者：合計90名（会場：家族36名、家族以外３名・ZOOM：家族51名、家族以外０名）
講　師：精神科医　菊山　裕貴氏　大阪医科薬科大学神経精神医学教室
大阪精神医学研究所新阿武山病院

《参加者の感想》

①感染症の減少　②内分泌かく乱物質の蔓延　③運動不足　④睡眠不足　⑤大気汚染

研究データに基づいたお話になるほど納得。増加の科学的理由がわかったところで今さらではあるのだけれど。ところがこの５つの理由はそれだけにあらず、人類は大変なことになっているらしい。現代人のライフスタイルのままでは絶滅するとか!? １万年くらい前の生活をするべし!?

1970年の万博のテーマは「人類の進歩と調和」だった。ところが半世紀過ぎた今、コロナに戦争、温暖化。調和とは程遠い。そうは言っても前を向いて生きていくしかなくて、できることはと言えば、**適度な運動、快眠快便、腹八分目、それと毎日なにか楽しいこと！**

（編集委員　D）

精神保健福祉講座⑥
「どうする医療中断　体験談から　医療中断しやすい人へのサポートについて考える」

２月17日（土）
アネックスパル法円坂12号室とZOOM配信
参加者：合計95名（会場：家族29名、家族以外２名・ZOOM：家族64名、家族以外０名）
講　師：後藤　雅子氏　（NPO）寝屋川市民たすけあいの会共同代表理事
神戸女学院大学非常勤講師
夛良　昌子氏　だいかれん電話相談アドバイザー
一般社団法人大阪精神保健福祉士協会
堀居　　努氏　大阪府精神障害者家族会連合会　副会長

《参加者の感想》

・自分の子も医療中断しやすい人でエネルギーが高いと初めて知りました。いろんな点で勉強になりました。
・お二人の体験談を聞いて同じだなぁと思いました。講師の方々の話はどれも体験に基づくもので実質的であり非常に参考になり考えるヒントになりました。参加できてよかったです。
・「苦労を先取りしない」、「前を向いて生きよう」に共感します。
・精神の病気は誰にでも話せるものではない。もっと精神の病気のことを誰もがわかる環境作りが必要だと思いました。そして、何より自宅で見ている家族が困ったときにすぐに対応してくれる病院等が多くなることを願います。
・精神疾患はほんとうに長い間、本人と周りの家族が苦しめられるんだと改めて痛感。そのような状況の中で家族会の果たす役割が大きいと思います。

（家族会でZOOM配信視聴）

家族の思い　ペンネーム　ポポロン

現在一人で外出する事が出来ない30歳の息子がおります。

小学校を卒業する頃からお腹が痛い、頭が痛いとよく言い、その度に病院に連れて行きましたが別にどこも悪くないという診断でした。そんな時、頻繁に病院へ通っていたので先生から、精神からきているかもしれないと言われましたが「まさかうちの子に限って」と思い放置してしまいました。

中学校は不登校で、その頃からだんだん「変な音がずっと聞こえる。家を見張られている。僕の悪口を言っている。」と言い出しました。おかしいとその時気付き、近くのクリニックに連れて行き、そこで統合失調症と言われました。

しばらくは、そこに通院し薬を服用して何とか過ごしていましたが、幻聴に支配され、それに従って行動するようになったので、クリニックの先生から病院を紹介され入院する事になりました。３ヶ月で一度退院しましたが、それでも幻聴に支配され物を投げて壊す、家族にお金を要求する、ネットで高額な買い物をするなどあり、また徘徊するようにもなり、気が休まらない日々が続きました。

そんなある日、暴れて警察のお世話になり強制ではありませんが、病院へ逆戻りになりました。１年近く入院しまして、大分見た目にも良くなり退院に至りました。

しかし、家に戻ってから間もなく「自室が怖い。幻聴がするので入院したい。」と自分から言い出し入院させました。その時初めて「クロザピン」という薬があるので、様々な制約はありますが、服用してみませんか？と言われ、いろいろ考えましたが、本人が飲んでみると言いましたので服用させることにしました。結果、薬の副作用が多少あり、幻聴もまだ聴こえる様ですが、幻聴に支配され振り回される事はないように感じます。

今思うのは、最初に内科の先生に精神からきているのかもと言われた時点で、もっと早く対処していれば、幻聴に支配された時に怒らずに上手く付き合えていればと、後悔しています。

しかし、入院している息子の面会に行くと、辛い気持ちと愛おしい気持ちでいっぱいになり、それから息子に対して怒るということは、極力控え（たまに爆発することがありますが）話を聞き、寄り添う様に出来ればいいなと思います。

最後に、家族会にお誘いいただき色々勉強させていただいたり、またお話を聴いていただいたり、ご意見をいただいたりと、とても感謝しております。

ひとりで悩んでいませんか？

心の病の患者さんを抱えている家族の方
ひとりで悩んでいないで…
あなたはもう
ひとりぼっちではありません！
同じ家族の立場で
電話相談員があなたの悩みを
お聞きします。

大家連　**電話相談室**

☎06-6941-5881

電話相談日 月～金 11:00～15:00

（祝日・お盆・年末年始は休みます
コロナ発生状況により変更あり）

シンポジウム
「なぜ、精神科医療現場等で虐待が繰りかえされるのか ～滝山病院の虐待事案から考える～」を聴いて

第１部　基調講演　「滝山病院」虐待事件の真相から
講師：長谷川　利夫氏　杏林大学保健学部リハビリテーション学科教授

2024年２月３日（土）、神戸市において長谷川先生の講演を聴き、私なりに感じたことを述べさせていただきます。

2023年２月25日にNHK・ETV特集「ルポ死亡退院　精神医療・闇の実態」が放送された。最初見たときは怖くて、まともにテレビの画面を見ることができませんでした。見終わった後の胸の息苦しさ、親亡きあとのわが子の姿かと不安心配で夜も眠れませんでした。

放送されてから一年経過、滝山病院虐待事件は看護師たちの逮捕と、朝倉孝二理事長　朝倉重延院長の辞任で終わりましたが、根本解決に至っていないと思います。

では虐待はなぜ起きるのか。長谷川先生の講演を聞き資料を拝見するといくつか考えられる。「精神科病棟の閉鎖性」、「精神科特例で他科より医師・看護師の数が少ない」などがあげられる。

閉鎖性（精神科病院は患者さんの心を支える場所ではなくて、問題のある人を閉じ込める場所、収容所として機能してきた歴史）においては治療者から患者へと人間関係が上から下への一方向となり対等な立場では無く、収容する側に権力が与えられ、収容される側は服従しかできない。そのような環境で暴力が生じるのではないかと思う。管理する側と管理される側の二分化。

また精神科特例で医療従事者が少なく、特に夜間は人手が少なく不穏な動きをする人に対して身体拘束が増えるのではないのかと感じた。滝山病院のルポをみると滝山病院では身体拘束帯もさらしやガムテープで代用されていた。身体拘束の要件（切迫性、非代替性、一時性）をないがしろにして常習的に行われていたように思えた。患者の顔を枕で押さえたり、殴ったり、暴言で患者を威圧したりと暴力が横行しており、全くもって人権侵害。

長谷川利夫氏は、「精神科の学会では『１週間の拘束で急性期を脱するのと、１か月、隔離室に閉じこめるのと、どちらが人道的で患者のトラウマが少ないか』が議論される。しかし、まず求められるのは、『人が人を縛るのは尋常のことではない』という感覚だ。患者の苦しみに共感し、なぜ興奮しているのかを対話によってつかんでいく姿勢があれば、不要な拘束はおのずと減るはずだ。不要な拘束を減らしていく試み自体が、日本の精神医療の閉鎖性を打破し、患者本位の医療を実現する大きな力になると考える」と述べられている。（2019年２月14日読売新聞〔論点スペシャル〕病院の身体拘束どう減らすより抜粋）

第２部　パネルディスカッション「なぜ、精神科医療現場等で虐待が繰りかえされるのか」
パネリスト：精神医療サバイバーズフロント関西　主宰　吉田　明彦氏
兵庫県精神福祉家族会連合会　会長　新銀　輝子氏
兵庫県弁護士会　藤田　翔一氏
兵庫県精神保健福祉士協会　会長　北岡　祐子氏
助言者：杏林大学　長谷川　利夫教授

ご自身の入院経験。家族の立場から社会的偏見と戦っている。身体拘束はゼロを訴えたい。また支援者の立場から2020年３月に神出病院虐待事件が起こったことにも触れ、患者と丁寧に寄り添うことにより身体拘束を減らしていきたい、等それぞれの立場から発言された。

参考文献　長谷川　利夫氏　資料
横田　泉著「精神医療のゆらぎとひらめき」日本評論社　2019年７月発刊

（理事　三好　忍）

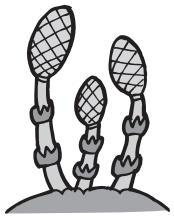
令和6年度　大家連要望書（大阪府知事宛て）　要約

【医療】

1．24時間365日、緊急時にも適切に対応できる専門家が対応する精神保健福祉医療相談窓口の実施
2．精神科救急医療システムによる受け入れ病院を地域に戻りやすい圏域での配分の実施
3．病状悪化で困ったときに、医療とつなぐアウトリーチチームを「にも包括」に提案されている通りの実現
4．身体拘束の廃止をめざし精神科医療機関における身体拘束・行動制限に関する改善を実現
5．精神科病院の虐待事案を令和６年施行の精神保健福祉法実施による通報先の部局の明確化
6．障害者重度医療費助成制度を精神障害者、手帳１級所持者だけでなく２級、３級所持者にも拡大
7．障害者の老人医療制度（65歳以上の手帳２級所持者にも重度医療費助成制度を対象とする）の復活
8．コロナが５類に移行してもPCR検査やコロナ治療費の窓口負担の従来通りの無料化
9．医療継続の責任を家族と当事者のみに負わせるのでなく医療機関や行政がその責任を果たすべく関係機関の対応の改善方策の明示

【地域生活】

1．教育
　①大阪府職員並びに一般市民（教育職員、医療関係者、障害者地域支援事業所職員、地域自治会役員）への精神疾患理解および精神障害者の権利にかかわる人権教育の徹底、研修の場に当事者、家族の体験を伝える場の設定
　②平成20年度改訂の「精神障がいについて理解を深めるために」を、最新の障害者の人権に関わる認識、精神保健福祉の知見を取り入れ刷新の実現
2．住まい
　①公営住宅の障害者単身入居枠について、一昨年度、昨年度の実施数の開示
　②大阪市平野区の市営住宅の自治会当番について自治会の対応で障害者が自死する事件後、住民および自治会の障害に対する意識改革のためにどのようなことがなされたかの明示、清掃の手間に業者委託などで、負担軽減を図りその費用の自治体負担の実現
　③住宅確保要配慮者への円滑な入居支援として、居住支援法人の指定、居住支援協議会設立に向けた補助、府営住宅入居者の家賃債務保証会社による家賃支払いその他債務保証、保証人確保の猶予、市町営住宅の保証人が見つからない場合の家賃債務保証会社による保証制度などの実施と窓口の明示
　④国の福祉と住宅供給をセットにした国の民間住宅空住戸の供給をもとに「住宅セーフティネット検討会」をどのように取り入れるか



3．日中活動の場
　①通所型障害福祉サービスの事業所の絶対数が不足と行政主導での拡大と支援の質にかかわる監査の実施
　②国の「引きこもり支援推進事業」を大阪府はどのように実施しているのかの明示
　③ヘルパーの絶対数の不足でヘルパー数が拡大するよう、ヘルパーへの報酬の充実の実施
　④障がい福祉サービスを受けるための障がい支援区分調査の際、精神障害者の特性への配慮
4．保健所の相談、訪問の拡大と質の充実。保健所数、復活と相談員の増員
5．ヤングケアラーのみならず、親、18歳以上の子供、兄弟姉妹、配偶者などのケアラーについて家族負担の実態の調査の実現と必要な公的支援体制の構築

《別途原文は事務局までお問い合わせください。市町村議会などへの提出に是非ご活用ください》

2023年度の賛助会費・寄附報告

年会費をいただきました。ありがとうございました。

賛助会費　（1口3千円/年）として

3人分		3口

（寄附）

大家連へのご支援、大変ありがとうございました。

氏　　名	地　域	寄　附
ひかりえクリニック	生　野　区	10,000円
仲宗根康江	吹　田　市	10,000円
松下弘志	浪　速　区	10,000円
やまもとクリニック	西　　区	10,000円
（匿名）	吹　田　市	100,000円
和田純子	枚　方　市	8,080円
羽田信子	寝屋川市	3,000円
松林　昇	東淀川区	3,000円
（匿名）	西　　区	3,000円
野崎京子	豊　中　市	5,000円
いとうまもる診療所	泉　南　郡	10,000円
大正若葉家族会	大　正　区	10,000円
新川久義	富田林市	5,000円
箕面神経サナトリウム	箕　面　市	30,000円
京谷クリニック	西　　区	10,000円
阿草良子	豊　中　市	5,000円
ちかまつクリニック	中　央　区	20,000円
七山病院	泉　南　郡	30,000円
中畑俊朗	岸和田市	10,000円
村上診療所	東大阪市	10,000円
茨木家族交流会	茨　木　市	6,000円
新阿武山病院	高　槻　市	30,000円
椎木和博	岸和田市	7,500円
木村診療所	高　槻　市	10,000円
東布施野田クリニック	東大阪市	10,000円
西村雅一	東大阪市	10,000円
星のクリニック	高　槻　市	5,000円

（2023年12月1日～2024年3月1日）

□□□　編集後記　□□□

▲正月元旦、憩いの能登を大地震が襲った。道路は亀裂、山は崩れ、港は海底が隆起し機能を失われた。六階のビルが倒れ、農業用のビニールハウスが避難場所とはその凄さに驚くばかり。

▲水、電気、通信などライフラインが途絶した避難生活は想像するに余りあるものだ。

▲災害のたび、思いをいたすのは、当事者、家族のこと。通常でも通院、服薬などの療養が難しい環境下の彼らに支援が届いているだろうか。

▲東北の折は大阪から医療、看護チームが現地派遣された。復興もさることながら是非とも支援の力が広がることを期待してやまない。　（編集委員　奥村　昭）

▲蛇口から水が漏れる。勝手口の取っ手が外れる。「どないなってんねん！」と息子の大きな声。「これはパッキン、取っ手は締め直しでＯＫ！いつもの店へ修理をお願いしたらいいよ」と言ってもそれができません。息子の大きな手は年々不器用に変な力が入ります。修理前日は寝つきが悪く、修理中は居場所が無く、外へ行くも「修理すんだか？もう帰ったか？」と電話が入る。修理の仕方見といたらと思うが、それはハードル高そう。親なき後、困った時「どうしたらいい？」と聞ける友達や支援センターに繋がりますように。

（編集委員　M.K.）

2023 年度の共同募金配分金 54.1 万円が決定しましたのでお知らせします。
赤い羽根共同募金の寄付による配分金でだいかれん誌の発行が成り立っています。
寄付下さった皆さまに心よりのお礼申し上げます。
又、会員の皆さまには赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします。

編集人　公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会　会長　大野　素子
連絡先　〒540－0006 大阪市中央区法円坂1－1－35　アネックスパル法円坂（Ａ棟４階）
Tel 06－6941－5797　Fax 06－6945－6135
ホームページ daikaren.org　だいかれん　で検索もできます

振込先　郵便振替　00970－4－72221　公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会

定　価　１部100円（大家連家族会費には購読料を含む）

発行人　関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町２－２　東興ビル４階

一九九六年五月一日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行